場所・面積　静岡県裾野市、185.19 ha

管理目的　主伐再造林による適切な維持管理を通じて、水源涵養機能の発揮および森林の成長率向上を図る。



サイト概要

静岡県裾野市に位置する延べ185haの当社保有林であり、広葉樹の天然林が大部分を占めている。

最大標高差約650mと広範な分布により、多様な気候・土壌等の各種条件で見られる生態系が共存しており、県内でも珍しい植生が存在している。

本エリアの主伐再造林に伴い生産した木材は、当社戸建事業の資材や木育啓発イベントなどの幅広い用途で活用している。

土地利用の変遷　長らく手入れがされていない広葉樹林・針葉樹林であったが、裾野市と包括連携協定を締結した2022年5月より、当社主導で長期的な森林再生を目的とした整備活動を進めている。

サイト周辺の環境　静岡県裾野市の箱根火山地斜面に位置する。対象サイト周辺は、コナラ・クヌギなどの二次林、耕作地、ゴルフ場や牧草地などがモザイク状に分布し、里山的な環境がみられる地域となっている。平野部まで下ると、畑地や水田などの耕作地と、住宅地・工業地・商業地などの市街地として利用されている。

アピールポイント

広葉樹の天然林が主であり、野生動物の営巣、餌場、隠れ場としての機能が見込めるほか、水源涵養により地域の水害リスク低減にも寄与する。

人工林が多い箱根山麓において貴重な自然性の高い植生を持つほか、対象サイトが位置するフォッサマグナ地域固有の希少な生態系が存在する。

また対象サイト産の木材を活用し、都内商業施設等で家族向けの木育イベントを実施することで、森林環境に関する理解浸透にも貢献している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

静岡県裾野市に位置する延べ185haの当社保有林であり、広葉樹の天然林が大部分を占めている。

【主な植生】

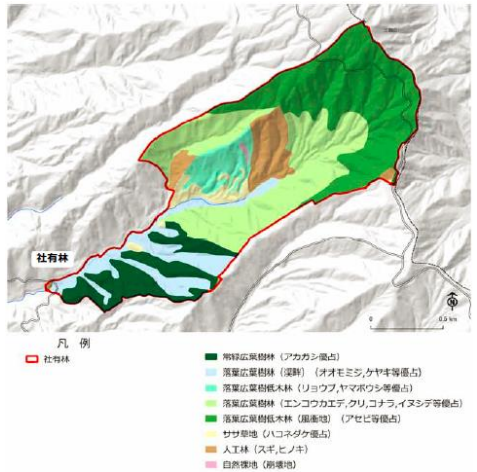
植生自然度4,7
主な植生は、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クリ・コナラ群集、クヌギ・コナラ群集

【確認された主な動植物】

以下の通り、自然性の高い植生が幅広く分布している。

常緑広葉樹林	：アカガシ優占
落葉広葉樹林	：オオモミジ、ケヤキ等優占
落葉広葉樹林	：エンコウカエデ、クリ、コナラ、イヌシデ等優占
落葉広葉樹低木林（岩角地等）	：リョウブ、ヤマボウシ等優占
落葉広葉樹低木林（風衝地）	：アセビ等優占
人工林	：スギ、ヒノキ
ササ草地	：ハコネダケ優占

なお、動物種に関する詳細な実地調査は今後実施予定である。
裾野市域は、標高差が大きく自然林から草地まで変化に富むエリアであるため、
哺乳類・鳥類・昆虫類まで幅広い生態系が見られる。中でも鳥類については県内有数の生息地であり、コマドリ・ウグイス・フクロウなどが観測されている。
当社保有林においても、これらに類する生態系の存在が想定される。



写真の説明：相観植生図



写真の撮影年月：2021/11/15
写真の説明：落葉広葉樹林（クリ・コナラ等優占）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

静岡県裾野市に位置する延べ185haの当社保有林であり、広葉樹の天然林が大部分を占めている。

【主な植生】

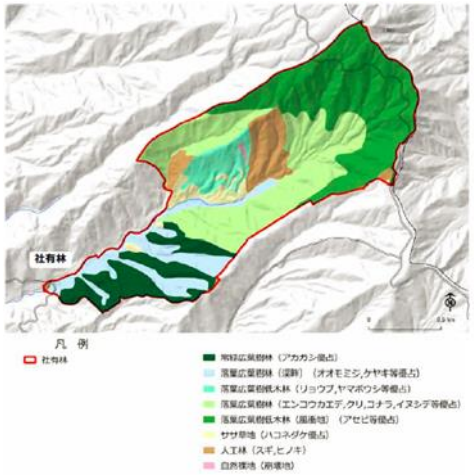
植生自然度4,7
主な植生は、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クリ・コナラ群集、クヌギ・コナラ群集

【確認された主な動植物】

以下の通り、自然性の高い植生が幅広く分布している。

常緑広葉樹林	：アカガシ優占
落葉広葉樹林	：オオモミジ、ケヤキ等優占
落葉広葉樹林	：エンコウカエデ、クリ、コナラ、イヌシデ等優占
落葉広葉樹低木林（岩角地等）	：リョウブ、ヤマボウシ等優占
落葉広葉樹低木林（風衝地）	：アセビ等優占
人工林	：スギ、ヒノキ
ササ草地	：ハコネダケ優占

なお、動物種に関する詳細な実地調査は今後実施予定である。
裾野市域は、標高差が大きく自然林から草地まで変化に富むエリアであるため、
哺乳類・鳥類・昆虫類まで幅広い生態系が見られる。中でも鳥類については県内有数の生息地であり、コマドリ・ウグイス・フクロウなどが観測されている。
当社保有林においても、これらに類する生態系の存在が想定される。



写真の説明：相観植生図



写真の撮影年月：2021/11/15
写真の説明：落葉広葉樹（クリ・コナラ等優占）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

静岡県裾野市に位置する延べ185haの当社保有林であり、広葉樹の天然林が大部分を占めている。

【確認された希少種】

ハコネグミ（絶滅危惧Ⅱ類）など、フォッサマグナ地域固有の重要植物5種が確認された。

なお、動物種に関する詳細な実地調査は今後実施予定である。
裾野市域は、標高差が大きく自然林から草地まで変化に富むエリアであるため、
哺乳類・鳥類・昆虫類まで幅広い生態系が見られる。
静岡県の絶滅の恐れがある動植物について取りまとめた「まもりたい静岡県の野生動物（県版レッドデータブック）」に掲載されている希少動物のうち62種（ヤマネ、カモシカ、クマタカなど）は裾野市に記録があり、対象サイトにも生息の可能性がある。



写真の撮影年月：2021/11/15
写真の説明：対象サイトで確認されたハコネグミ

生物多様性の価値

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】

静岡県裾野市に位置する延べ185haの当社保有林であり、広葉樹の天然林が大部分を占めている。

【確認された分布限定等種】

ハコネグミ（絶滅危惧Ⅱ類）など、フォッサマグナ地域固有の重要植物5種が確認された。

フォッサマグナ地域とは、糸魚川-静岡構造線の東側の地溝帯を指す。
このエリアの南半分にのみ分布する植物群を「フォッサマグナ要素の植物」と呼ぶ。
かつては海没しており、第3紀中頃の比較的短い火山活動に伴い隆起した場所に
侵入・定着し、適応・変成したと考えられることからも、非常に希少な植物群である。



写真の撮影年月：2021/11/15
写真の説明：対象サイトで確認されたハコネグミ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

対象サイトにおいて、水源涵養機能の発揮および森林の成長率向上を目的として下記想定スケジュールで森林管理を実施する。

<主伐・再造林>

・計画初年度である2022年4~5月にかけて、主伐による既存森林の整備を行う
・2022年秋を目安に、苗木の植樹による造林を行う
・2023年以降は、毎年夏頃を目安に雑草の下刈りを行う
　加えて、2023年の秋を目安に間伐を行う

<災害対策>

・風倒、病虫害、野生鳥獣による被害や、不法投棄等人為的な被害による森林の劣化に対して適切な対応を講じられるよう巡視を行う
・中でも鳥獣害のリスクがある場合は、対象林地に獣害防護柵の設置、または植栽する苗木に対し幼齢木保護具の設置を行う

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

獣害防止策の有効性

【モニタリング場所】

シカ防護柵

【モニタリング手法】

担当者による巡視

【実施時期及び頻度】

年2回

【 実　施　体　制 】

管理責任者が定例業務として実施